

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100350		
法人名	医療法人正和会		
事業所名	正和会グループホームゆかり		
所在地	秋田市将軍野東三丁目3-27		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

五十嵐記念病院と連携し、毎日の院長往診と年に2回の健康診断を行い健康管理に努めています。休日・夜間も対応可能な他、緊急時の応援態勢も整っています。同法人の関連機関も多く、退居後のフォローも協力を得られます。入居者それぞれに担当職員を決め、運営理念に基づき自分の家族のように想い、いたわりの気持ちを持って接するよう心がけています。毎月の会議の他、日々の変化や小さな気付きも職員間で情報交換し、個々のより良いケアを目指しています。ホーム内は家庭的で、穏やかに過ごしやすい雰囲気、外には花壇や畑があり、家庭菜園を楽しみながら季節を感じる事が出来ます。衛生面では、毎日の清掃・消毒を徹底し、感染症の予防にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人正和会では、医療と福祉の連携した質の高い総合的なサービス提供体制となっている。医療が必要になった場合でもシームレスな連携なので、ご家族・ご利用者が安心している。また、ご利用者のみならず職員のメンタル面でも強い味方となっており、福利厚生も充実して働きやすい職場環境であるためケアにも余裕が生まれている。「仲良し家族」を理念に掲げ、ご利用者を職員が自身の家族と想うスタンスは、利用者本位の暖かなゆとりのあるサービスの実践に繋がっている。今年度は特に、コロナ禍で高齢者は体力低下や免疫機能の低下により、かかると重症化しやすいといわれているので、法人全体で感染症予防として、うつらないよう、うつさないようにいつも以上に細心の注意と厳重な対策を実施され感染のリスクを最小限に抑える努力をしている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を「仲良し家族」とし、おもいやりといったわりの気持ちを持ち、住み慣れた地域で、安心して生活出来るよう全職員が日常業務の中で意識しながら支援しています。	同じ家に住む大家族として気持ちよく過ごしていただけるよう、自分の家族だったらどのように支援するべきか、という視点で考えている。家族の一員と思いつつも、節度を保ち理念に沿った支援となるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、地域とのつながりが自然に保てるよう回覧板を入居者と一緒に届けたりしています。町内の夏祭りでは子供達が踊りを披露してくれたりしています。	町内の資源ごみ回収に協力を続けたり、大きなスーパーだけでなく町内の商店(肉屋)を利用したりと地元との繋がりを大切にしている。またコロナ禍、色々な地域との行事が中止となっているが、町内の会館を災害時の避難所として快諾をもらったり、町内の副会長と双方向の情報交換をしたりと地域とのつながりを断たないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	介護相談で訪れた方々の話を聞き、必要に応じて施設を紹介したり、アドバイスや情報提供をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	それまで行なった行事や今後の行事予定、事故・ヒヤリ報告等の内容で2ヶ月に一度開催しています。参加者から意見をいただき、サービスの向上に活かしています。	感染症の予防対策上から法人の方針で紙面での開催となっているが、面会制限下においてご家族全員に紙面を郵送することで、色々な感想や意見を聞くことができ、ケアサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談は、法人事務担当者が主となり行っています。更新手続き等において市窓口へ出向いた際や、ケースワーカーが来所した際には相談、情報交換をしています。	定例的なことは、法人事務担当者が行っているが、緊急時等には必要に応じて、地域包括支援センターやケースワーカーと情報交換して連携を図る体制となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけずに見守りをしています。定期的に会議を行い、拘束しなくても良い方法・アイデアを出し合い、拘束しないケアを心がけています。	身体拘束による弊害を理解し、法人での身体拘束適正化委員会を3か月に1回主治医も交えて実施し事例検討を行っている。また、ホームでも利用者個々の安全確保のためにケース検討を実施し、実践に役立てて身体拘束をしないよう検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修・勉強会を定期的に行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する機会を持ち、職員間で知識を共有・活用するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退居の決定は院長や家族と相談したうえで決定しています。改定の際は、口頭での説明に加え文書での同意をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置するほか、家族の面会時は近況を報告し、雑談の中で気軽に意見・要望を話せるような雰囲気作りに努めています。	面会制限下(の中)でも、ガラス越しの面会を試みたり、普段の様子を写真でお知らせしたり、なかなか来訪できないご家族には電話やお便りで日常を伝えたりと信頼関係を築き、要望や意見を気軽に話していただけるよう努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているカンファレンス時に、意見交換を行っています。法人事務課長等が定期的に来所して意見を聞く場を確保している他、年2回個別に面談を行っています。	忌憚ない意見交換ができる体制が作られ、職員の意見を取り入れている。希望休や有休取得、物品の購入・修理修繕を速やかに行い働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、職員との面談の機会があり、個々の能力や勤務状況に合わせた人事異動や、希望部署への配置替えも考慮してもらえます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	合同の勉強会に参加できる機会がある他、希望の研修に行けるよう勤務調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症GH連絡協議会に参加する事で、同業者との交流や意見交換・研修等に参加することが出来ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談し、不安や悩み、今後の要望など直接お話をうかがっています。見学をして頂く事で、施設内の雰囲気を感じて頂き、安心して入居していただけるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設の見学・説明を行い、これまでの暮らしの様子や、心配事、今後の要望等をお聞きしています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の知識や畑作業の知恵など、入居者の豊富な経験から学ぶことも多くあり、入居者が中心となってやりがいを持って暮らせるよう職員はさりげないサポートを心がけています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への近況報告や連絡を密にし、家族と一緒に協力しながら本人を支えるような関係作りに努めています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住んでいる親戚の方や、友人が訪れた時は一緒に写真を撮ってお渡ししたり、来てくださったお礼の手紙を書いたりしています。関係が途切れないよう年賀状のやり取りもお手伝いしています。	感染症予防のために面会・外出制限がある中で、利用者にお届け物が届いた時には、贈り物と一緒に利用者の写真を送ったり、日常の何気ない時の写真を送ったりと普段の生活が垣間見えご家族が安心できるよう支援している。また、通院時に入所前の馴染みの場所を経由する等、工夫している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や能力を活かし役割とやりがいのある生活ができるよう支援しています。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や、退居後のフォローも可能な限り行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の情報から生活背景を理解し、日常生活を通して一人一人の意向を把握しながら職員間で情報を共有しています。	思いや意向の表出が上手くできない方の日常生活の様子や会話の中から、生活歴を把握している。職歴や習慣から利用者の思いや意向を推測したりと、利用者がどう考えているのかを理解しようと努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、これまでの生活習慣や環境等を聞き取り記録しています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日どのように過ごしたか、心身に変化はないか、注意点や共有すべき情報等を毎日記録し、全職員が把握できるように努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、本人および家族の意向を聞き取り、各人居者の担当職員が他職員の意見やアイデアを収集し、現状に即した介護計画を作成しています。	ご家族の意見やカンファレンス時の意見を担当職員がまとめて介護計画に反映できるよう努めている。また、暫定プランをご家族に確認してもらい更に本人本位の介護計画に近づけるよう努めている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録し、小さな気付きも職員間で情報を共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣スーパーへの買い物や、気分転換での外出散歩、ドライブ等が自然に出来るように柔軟な対応を心掛けています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人病院の院長が往診し、健康管理に努めています。以前からのかかりつけ医を変更する時は、利用者と家族の同意を得た上で、紹介状により適切な医療を受けられるよう支援しています。	主治医の往診や訪問看護の支援などの医療体制が充実しており安心して適切な医療が受けられることができる。整形外科や歯科なども適切な処置が受けられるよう支援体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日記入している「業務日誌」を母体病院の外来看護師へ提出しています。週一回の訪問看護とも連携を図り、気になることがあれば休日夜間を問わずいつでも連絡できるよう、協力体制が整っています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でも家族の希望があれば洗濯や物品補充を行い、環境の変化で不安にならないよう、面会の時間を作り、その際は病院関係者と情報交換し、家族へ報告し職員間で申し送っています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に、医療に対する希望確認書を記入いただいています。病状に応じて主治医と一緒に家族と話し合いの場を持ち、出来る限りの支援内容を伝えながら、方針の共有を図っています。	看取りは実施しない方向性ではあるが、状態に応じてご利用者ご家族が納得できるように、事業所としてできること、法人として協力できることを明確にして、将来の不安解消に努めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時・事故発生時対応マニュアルをもとに職員研修を行っています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回行ない、夜間検証は消防署員立ち合いのもと、総合訓練を行なっています。火災通報装置は運動しており、消防署の他、全職員と近隣住民へも連絡がされるようになっていきます。避難先は母体病院のほか町内会館も使用できる事になっています。	様々な災害を想定して非常災害マニュアルが作成され、石油ストーブや非常食の備蓄、発電機や火災通報装置の取り扱いも訓練されている。近隣にはすぐに駆けつけることができる職員や同法人の医療職等の協力体制も構築されている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の性格や、その時々々の気持ちを考え、自尊心に配慮した言葉選びと態度で接するよう心がけています。	構造上、トイレの位置が共有スペースに隣接されているため、声掛けには特に配慮して周りに気づかれないよう支援している。また、声掛けはやる気を引き出せるような言葉となるよう努めている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体となって生活できるよう職員はサポート役として支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間や余暇の過ごし方は、一人一人の希望や考えを尊重し柔軟な対応を心掛けて支援しています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は化粧を楽しんだり、お気に入りのアクセサリーを身につけるなど、おしゃれをして出かけることが出来るよう支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で採れた野菜を使用したり、入居者と一緒に買い物に出掛け食材を決めたりしながら、食事を楽しめるようにしています。調理や片付けも入居者と一緒に行なっています。	共有スペースに窓がなく季節を感じる事が難しいので、食事で季節感を感じられるような献立となるよう工夫したり、旬の野菜を作ったりしている。軟食や刻み・ミキサー食やとろみを必要とする方もおり、個々の能力に合わせて調理方法を工夫して食事を楽しんでもらえるよう努めている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、一口大・キザミ等、食事の形態を個々に合わせ、食事と水分の摂取量を記録しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンを把握し、動作やしぐさの観察を行いながら出来る限り排泄の自立につながる支援に努めています。	利用者の高齢化に伴い身体能力の低下が見られるが、できるだけトイレでの排泄に向けて、排泄パターンを把握して時間で誘導を実施している。また、利用者の独自の癖や様子からも排泄支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動の実施、水分補給、腹部マッサージ等で下剤に頼らず排便できるよう支援しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日の希望を聞き取るほか、お湯の温度や脱衣場の環境も個々に合わせ、一人一人ゆっくり入浴できるよう配慮しています。	ゆっくりできるようにと、1日に3人程入浴していただき、浴槽に入れない方には脱衣所や浴室の温度にも細心の注意を払っている。また、入浴後にボディクリームを塗るなど利用者や家族の希望を取り入れた支援をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しながら、適度な昼寝の時間を設けたり、就寝前に居室の温度を調整する等、個々に合わせた休息・安眠ができるよう配慮しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医薬品担当職員を中心に病院と薬局との連携を図っています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあったレクリエーションや体操、ドライブや買い物ができるよう支援しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の天気や入居者の気分に応じて、日課にとらわれず散歩や買い物に出かけています。車椅子の方でもリフト車を利用して外出できるよう支援しています。	コロナ禍外出については、できる限り人との接触を避けるようにしているので、例年のように気軽に買い物に行ける機会が減ってはいるが、敷地内の外でおやつを食べたり、花を見たり菜園での収穫を行ったりと外の空気に触れて気分転換が図れるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ同行した際は、本人がレジで支払い出来るよう支援しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が代筆して手紙を出したり、子機を使用し居室で会話できるようプライバシーへの配慮もしています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには食堂テーブル、ソファークーナーがあり、好きな時に好きな場所でくつろぐことが出来るようにしています。ホールの壁には季節にあった飾り付けをし、季節を感じて頂けるようにしています。	構造上リビングは天窓になっているので季節感を視認しづらいが、天窓からの採光は気持ちよく、台所からは食事の準備の音や匂いが感じられる。思い思いに過ごせるスペースやソファが安全に配慮されて置かれている。壁には季節感が醸し出せるよう工夫を凝らしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士テーブルやソファで過ごせるようになっています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、椅子、タンス等使い慣れたものを自由に持ち込む事ができ、配置も家族や本人と相談しながら決め、居心地良く過ごせるように努めています。	利用者の気持ちに沿って好みの私物を持ち込んでいる。各居室は、利用者が落ち着いて過ごせるよう使い慣れた布団やタンスが使いやすいように配置され個々のレイアウトとなっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室等には手すりがついており、トイレや居室が分かるよう表札をつけたりし、なるべく一人でも行動できるように工夫しています。		